

## 決算審査特別委員会 指摘事項回答

### 1 職員の健康維持及び多忙化の解消について

時間外勤務については、平成 29 年度から実施した「時間外勤務の見える化」などにより、経常業務ベースで平成 30 年度は 28 年度に比べ 69,244 時間、率として 14.6%の削減となっております。これを引き続き実施することにより個人の業務の効率化及び職場内における業務の平準化に取り組むとともに、AI・RPA 等も活用しつつ、時間外勤務の縮減に取り組んでまいります。

あわせて、健康診断で所見のあった職員への保健指導、ストレスチェック検査における高ストレス者に対する面談、時間外・休日労働が長時間にわたる職員への面接など、高リスク者に対する個別指導を重点的に進め、職員が心身ともに健康で働きやすい環境を整備してまいります。

また、技術職員などの欠員に対しては、引き続き、本市への採用実績が多い大学に絞った学内セミナーを開催し、大学 OB である若手職員が働きかけを行うとともに、高卒を含め幅広い年齢層の採用を検討するなど技術職員の確保に努めてまいります。

### 2 土木費について

市民から特に生活道路に対する要望を多く頂いていることから、今後とも小規模要望については当年度内完了を実現するとともに、中規模要望の内、緊急的対応を要するものを最優先に、優先度の高いものは 3～5 年以内に全て対応することで市民満足度の向上を実現します。

第二種原動機付自転車を含む自動二輪車の駐輪対策については、現状確認、関係者との調整を踏まえ、中心市街地の駐輪場整備と合わせて検討を進めてまいります。

### 3 教育事業の充実について

外国人の子供の就学促進と教育支援の充実については、日本語指導や教科学習支援、母語支援、ライフコースに応じた支援を継続して行います。また、新たに就学の手引きのリーフレットを作成し、一層適正な就学への周知を図ります。

学校施設の改修については、本年度末に策定予定である「学校施設長寿命化計画」に基づき、計画的に改修を進めていきます。

放課後児童会については、将来の児童数の推計を踏まえ、待機児童の多い小学校から優先的に定員拡大に取り組みます。令和 2 年度には、実施箇所 8 か所の増、定員 415 人の増を図るとともに、学校敷地内への施設整備などにより、さらなる定員拡大を行ってまいります。

#### 4 コミュニティソーシャルワーカー配置支援事業について

本市では、今年度コミュニティソーシャルワーカーを12名配置し、地域の様々な福祉課題に対応するため、スクールソーシャルワーカーなど多職種との情報共有や意見交換の場として「地域支援検討会」を行っております。今後は、さらにスクールカウンセラーなど専門職との連携を深め、相談支援体制強化を目指し、来年度は2名増員し、目標値である14名を配置してまいります。

#### 5 障害者生活支援事業のうち外出支援事業について

外出支援事業の見直しに併せて実施した、移動支援サービスの支給時間の拡充のほか、今後、移動支援ヘルパーの養成研修を実施することで、担い手不足を解消し、多くの障がい者が移動支援サービスを利用できるよう努めてまいります。

また、今年度から実施している訓練施設に通所する軽度障がい者への交通費の一部助成は、事業実施3年を目途に効果を検証してまいります。

#### 6 救急体制整備事業のうち救急有資格者（救急救命士、救急隊員）の養成及び消防航空隊運営事業について

救急有資格者の養成につきましては、救急活動に必要な人数を確保するため、養成計画を策定し、本計画に基づき救急救命士及び救急隊員の養成を行ってまいります。令和2年度は、救急救命士4人養成、2人採用、救急隊員10人を養成し、全国的に増加傾向にある救急需要への対応及び有資格者の適切な労務管理を図るとともに、今後も段階的に必要な有資格者の確保を推進してまいります。

消防航空隊運営事業における消防ヘリコプター「はまかぜ」の操縦士につきましては、令和元年11月1日に事業用操縦士1人を採用し、年度内の型式限定資格取得を予定しております。また、令和2年4月1日に型式限定資格を有する操縦士1人を会計年度任用職員として採用し、4月中には情報収集、救急搬送など、一部の緊急運航を再開し、8月頃の本格的な航空消防活動ができる体制を目指します。